

研修所感 第1講「コロナ・社会保障・地方行政」

岩田 淳司

先月10月1日に厚生労働省を退任されたばかりの前厚生労働事務次官からの講義であり、まさにコロナ対応の最前線の方からのレクチャーだけのことはあり、広範で詳細な分析結果をお示しいただいた。今回の第5波はこれまでと違い重症者は格段に多いのに死亡者はこれまでの半分になっている点については、ワクチン接種2回が進んだことと、患者を受け入れる医療体制の充実や国全体としての対応経験の蓄積などの結果であるとの考えであった。またこれまで日本はコロナ対応に関して、諸外国と比べ決して劣っていることはなく、感染者数、死亡者数に関してもむしろかなり低く抑えられている。また第5波では高齢者の入院よりも若年層のそれの方が多く途中からストンと全患者数が減ってきたことに関しては、高齢者が2回ワクチン接種を終わらせていることに加え、メディアなどでの若年層の重症化リスクの周知などで不敷布マスクへと徹底されていったことやその他国民全体に行動変容が表れてきたためと分析されていた。

今後の取組については、①入院が必要な方が確実に入院できる病

床を確保することに加え、臨時医療施設、入院待機施設等の充実を図るなど、医療提供体制の充実・強化②年内の3回目の追加接種のため自治体の体制整備や必要ワクチン数の確保などワクチン接種体制の強化③子供に対する感染対策等の強化④一刻も早い日常生活の回復に向けての施策強化、を柱に進めていきたいとのことであった。